

第3回意見交換会 記録

1. 日時：令和元年 11 月 9 日 15 時 00 分～16 時 20 分
2. 場所：相生山緑地
3. 団体名：相生山緑地内道路早期完成協議会
4. 市出席者：緑政土木局企画経理課 岩本主幹（企画）、上杉主査（企画）
道路維持課 水谷主査（安全対策）
道路建設課 山中課長、可児主査（事業調整）
緑地事業課 岩本課長、中村緑地計画係長
5. 参加者：23 名
6. 当日の次第
 - (1) 開始のあいさつ
 - (2) 現地説明、質疑等
 - (3) 終了のあいさつ
7. 主な質疑、意見等（○参加者、●名古屋市）
（緑地計画について）
 - 公園の進捗状況はどうか？
 - 緑地の基本計画の素案をたたき台にして、基本計画の策定を目指していく。
 - 公園の予定事業費は？予算枠があって事業を進めていくのか？
 - 基本計画が策定されていないので、まだ整備費がどれぐらいかかるか算出できない。計画がある程度固まったら、整備費を算出して予算を確保していく。予算額ありきではない。
（道路について）
 - まずは、道路を造ってほしい
 - シェルターの延長は？
 - 100m 強。
 - 工事を中断せずに道路を造った場合と、道路を再開した場合では、事業費としてどれぐらい差が出るのか？
 - 当初の想定事業費 36 億のうち、29 億執行した。道路を再開した場合の事業費は算出していないが、建設当時から構造物の設計基準が変わっており、人件費も当時に比べると、1.5 倍にはなっている。
 - 中断してからの 10 年間で費用は発生していないのか？
 - 沈砂池の浚渫などで、300 万円/年ほど。
 - 植物調査などをして、道路予定区域に相生山緑地の独自の植物などは見つかったのか？
 - レッドデータブックに掲載されている準絶滅危惧種が分布している。専門家に相談して、工事前に移植できるものは移植などをした。相生山緑地は人の手が入った里山で、名古屋市の東部丘陵地帯の植生が保たれている。
 - 道路建設について、自然環境への影響などを学術的に検証した報告書が出たのでは？

- 平成 21 年末から平成 22 年末にかけて、学術検証委員会が設けられ報告書が提出された。委員会では道路を造ることによって、どのような影響があるかを検証された。結果としては、影響はあるが、どの程度まで影響があるかはわからないとのことだった。
- 想定している車の通行量は？
- 計画当時で、1 万台/日と想定していた
- リニアの開通と弥富相生山線の開通では、どちらが早く開通するのか？
- 現状では回答できない。
(整備プログラムについて)
- 道路周辺の民家は将来立ち退きになるのか？
- 都市計画緑地内であれば、第 2 次整備プログラムに基づいて順に事業に着手していく。事業着手する時には、説明を行い用地交渉に入っていく。
- (その他)
- パブコメの意見はどのようなものだったか？
- ほとんどが早く道路を造ってほしいという意見だった。2 割程度が、道路を造るなという意見。
- パブコメで、道路反対の理由は何か？
- 環境を大切にしてほしい、緑地を壊さないでほしいという理由があった。
- 市議会の現状は？
- 今年度の状況では、名古屋市の次期計画である総合計画で「AIOIYAMA プロジェクト」について諮ったところ、「道路事業を廃止し」は、時期尚早ではないかというご意見があった。総合計画のパブコメのご意見もあり、総合計画からは、「道路事業を廃止」という文言は削除した。9 月に道路事業の廃止についての請願審査があったが、保留となっている。日程は未定だが、道路開通についての請願審査が行われる予定。